

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
第24期・第5回土木工学・建築学委員会（全体会）
議事要旨

日 時：平成30年5月21日（火）13：30～17:30

場 所：日本学術会議1階 講堂

出席者：米田雅子、前川宏一、小林潔司、田辺新一、磯部雅彦、大西隆、嘉門雅史、木下勇、小松利光、塚原健一、内藤廣、望月常好、吉野博、依田照彦、和田章、小池俊雄、花木啓祐、寶馨、桑野玲子、竹内徹、赤松佳珠子、浅見泰司、石川幹子、伊藤香織、小野潔、小野悠、加藤信介、加藤直樹、川崎昭如、小峰秀雄、小森大輔、斎尾直子、定行まり子、下田吉之、田井明、田中稲子、田村和夫、戸田圭一、中上秀俊、永野正行、那須清吾、西島一欽、羽山広文、福井英雄、藤田香織、藤原章正、緑川光正、三輪律江、持田灯、森口祐一、保井美樹、安福規之、山本佳世子、渡辺朗子（順不同、敬称略）

配布資料

- 資料1 第3,4回土木工学・建築学委員会議事録(案)
- 資料2 土木工学・建築学委員会第24期会員、連携会員一覧
- 資料3 土木工学・建築学委員会 全体会資料
- 資料3-1 日本学術会議70年の歴史と近年の動き－発展の鍵は何か？
- 資料3-2 第24期の第三部、土木工学・建築学委員会の活動方針について
- 資料3-3 土木工学・建築学委員会の各分科会の活動方針
- 資料3-4 23期の日本学術会議の国際活動とフューチャー・アースの推進と連携
- 資料3-5 本委員会と関連の深い委員会等の活動の紹介

議事：

1. 前回議事録案の確認
 - ・資料1を用いて第3,4回委員会の議事録（案）が承認された。
 - ・本委員会の議事要旨については、委員各位にメール確認・意見聴取をいただいた上で、議事要旨承認は委員長に一任すること、および8週間以内に公開することが承認された。
 - ・米田委員長より、各分科会にて第24期の提言を行う場合には、2020年9月までに査読承認を経る必要があるため、遅くとも2020年3月頃までに案を取りまとめ戴くよう依頼があった。
2. 日本学術会議70年の歴史と近年の動き
 - ・資料3-1を用いて、大西前会長より学術会議創立以来の変遷と課題についての説明があった。1983年の法改正前後で、活動内容に大きな変化があり、現在は提言による社会への働きかけが中心となっていることが紹介された。
3. 第24期の第三部、土木工学・建築学委員会の活動方針
 - ・資料3-2を用いて、米田委員長より第24期の第三部、土木工学・建築学委員会の活動方針についての説明があった。分野別委員会、課題別委員会に加えて、45歳以下の連携会員からなる63名の若手アカデミーが活動を始めていることが紹介された。

4. 各分科会報告

- ・資料3-3に基づき、土木工学・建築学委員会の下記分科会の活動方針が説明された。

気候変動と国土分科会（望月）

長寿・低炭素化分科会（田辺）

インフラ高度化分科会（小林）

都市・地域とデザイン分科会（内藤）

低頻度・巨大災害分科会（磯部）

次世代構造システム分科会（前川）

IRDR分科会（寶）

WFEO分科会（塚原）

子どもの成育環境分科会（木下）

IUTAM分科会（前川）

5. 23期の日本学術会議の国際活動とフューチャー・アースの推進と連携について

- ・資料3-4を用いて、花木前副会長よりISC, IAP, AASSA, SCA等の国際学術団体等への貢献状況の紹介、および「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」（フューチャー・アース）活動に関する動向の説明があった。

6. 本委員会と関連の深い委員会等の活動の紹介について

- ・資料3-5を用いて、以下の委員会活動についての紹介があった。

アジア学術会議（吉野）

Sustainable Development Goals (SDGs)（沖／花木）

科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会（小池）

防災減災学術連携委員会（和田）

防災学術連携体（依田）

7. 意見交換

- ・現在の日本人の生活において発生するCO₂ではどのようなアクションによる比率が高いのか。冷暖房のイメージが強いが、実態はどうか。（和田）：気候の影響もあり、日本で冷暖房により発生するCO₂量は欧州と比べても1/5程度と少ない。むしろ様々な細かい家電の使用によるものが大きいと認識している。（中上）
- ・近年、我が国の産業競争力が低下していると感じられるが、日本学術会議としてこれに対する統合的・戦略的議論や教育のあるべき姿等に関する議論は行わないのか。（那須）：総合工学委員会やフューチャー・アースにおいて横断的・学際的議論を行うことは可能である。ただし学術会議では学術的・中立的アプローチで議論することが基本となるため、社会からの具体的な問いかけが必要となろう。（花木）
- ・子どもの成育環境分科会の提言を子育て中の女性若手官僚が読んでいるという話を興味深く聞いた。どうすれば学術会議の提言を官僚の方々に効果的に認識させることができるか意見を伺いたい。（小池）：提言を出した後のフォローアップ、PDCAサイクルに気を付けている。彼らは提言そのもの以上に調査データ（エビデンス）を求めている。一方、内閣府も学術会議も機能が縦割りになっており、横断的な対策が取りにくいことが障害となっている。しわ寄せが子供などの弱者に行きやすい。

(木下)

- ・防災連携体や土木工学・建築学委員会のメンバーに法曹界の専門家はいないのか。常時・非常時の社会の在り方を議論するうえで必要と考える。(内藤)：防災減災学術連携委員会には、第一部より法学の先生にご参加いただいている。(米田)：関東大震災後には治安維持のための非常時法制が強化され、それが結果的に第2次大戦に繋がるような社会的雰囲気(ナショナリズム)を作っていたような反省もある。災害時の統制と個人の権利をどのようにバランスさせるかの検討が必要。

(和田・内藤)

- ・気候変動分科会、巨大災害分科会の双方で高潮の問題を扱っているが、共同で議論できないのか。(米田)：双方の分科会に参加している委員もあり、情報の共有や最後の取りまとめにおける調整は検討したい。それぞれの分科会は切り口が異なるため、最初から議論に枠を嵌めたくない。(望月)：巨大災害分科会で取り扱う対象は高潮・津波以外にも地震、火山等多岐にわたっており、望月委員の意見に同感である。(寶)
- ・WFEO委員会における国際活動は土木・建築以外にも広げた方が良いのではないか。(依田)：現在、総合工学委員会より広く声掛けをしてもらっており、委員としてはどの分野からでも受け入れる体制をとっている。(塚原)
- ・学術会議は、何か起きたら社会に対してタイムリーに見解を出す事を求められており、学術の社会における役割を普段から検討しておく必要がある。土木・建築は学術分野の中でも総合性が強く分野横断の場を作りやすい。(大西)

7. 今後の予定

- ・第6回委員会、2018年8月7日(火) 10:00～12:00
- ・第7回委員会、2018年11月22日(木) 10:00～12:00

以上